



ICT活用巡回指導訪問レポート

中3

生徒の意欲を引き出す英語交流学習 飛鳥中学校・本田大輔先生の実践

北区立飛鳥中学校3年生英語の授業で、福島県の中学校とのWeb会議(Google Meet)を使った英語での交流学習を参観しました。

▶ 1対1の交流で意欲を高める

Web会議というと、プロジェクターの大きな画面をみんなで見て、代表者が対話するという形式が多いのですが、それでは自分ごとになりにくいということで、今回は1対1での交流です。そのためになさっぱり準備して交流に臨んでいます。修学旅行の写真を見せながら、身振り手振りを交えて伝えようとしている意欲的な姿も見られました。

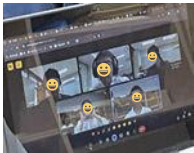


▶ つなぐのはICTを活用

相手校の先生と4月から綿密に連絡を取り合い、5月の自己紹介の手紙交換から交流が始まりました。イラスト付きの自己紹介の詩を交換することで相手の感性も知ることがねらいでした。交流相手がどんな人なのか会ってみたいという気持ちが高まったところで、いよいよ待ちに待ったWeb会議ツールを使つてのリアルタイム英語交流の時間です！

▶ 海外ではなく国内と交流するねらい

本田先生は、以前、海外の生徒と交流する授業を参観したことがありますが、英語力に差がありすぎて、かえって生徒が萎縮したり意欲をなくしていたそうです。そこで、国内の中学生ならレベルが変わらず、語彙(ごい)も似ているので、お互いにメリットがあると考え、以前英語指導の勉強会で知り合った福島県の中学校の先生に依頼したことで、この交流が実現したそうです。



▶ お礼の手紙交換は現物にこだわる

交流が終わった後は、両校の生徒たちはお礼の手紙を直筆で書きます。最後は生徒たちに実物の温かさや味を感じてほしいという先生たちの思いから、PDFデータではなく現物を郵送するそうです。ICTとアナログ、それぞれのよさを大事にしているのが生徒たちにも伝わることでしょう。

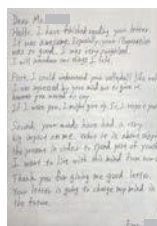
▶ 生徒の感想

「最初は緊張したけど、相手がとてもよく反応してくれたので、楽しく交流ができました。」
「ふだんできない貴重な体験ができてよかったです。もっと英語を使いたくなりました。」

授業後に生徒たちは、こんな感想を話してくれました。生徒たちが書いた手紙を見ると、送る度に文字量が増え、内容も濃くなっているのがよく分かります。



1回目の手紙



2回目の手紙



3回目の手紙

ICTを活用して相手意識を高め、英語を使いたくなる必然性を生み出すことで、生徒たちの学習意欲が高まり、学習効果も大きいことを目の当たりにした素敵な授業でした。

「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

きたちゃん コンちゃん by Toshi



防ぼう! SNSでの誤解

SNSでは短い言葉を使うことが多い上に表情が読み取れないので、上の漫画のように逆の意味に取られてトラブルになることがあります。他にどんな言葉があるか、どうすれば誤解を防げるか、お子さんと話し合ってみましょう。

1. 「いいよ」

・OKとも断りとも取れます。

2. 「なんで来るの？」

・理由とも交通手段とも取れます。